実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
芦北町	佐敷地域 (鶴木山、計石西、計石東、白岩、道川内西、道川内東、乙千屋、伏木氏、花岡西、町四区、花岡北、諏訪、花岡東、田川、寒気、庵の山、桑原、八幡、宮浦、松生、大尼田、立川、榎川内)	令和4年3月31日	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	480.52ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	262.06ha
③地区内における 70歳以上 の農業者の耕作面積の合計	123.41ha
i うち後継者が「 いない 」と回答した農業者の耕作面積の合計	58.61ha
ii うち後継者が「 未定(決まっていない) 」と回答した農業者の耕作面積の合計	23.32ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	7.34ha
(備考)	

2 対象地区の課題

本地域は平野部、中山間地域含め水稲単作を中心とした栽培が行われており、海岸部の丘陵地においては甘夏を中心とした果樹栽培が行われている。
 町の中心地域であり若年層の割合が高いものの、70歳以上のアンケート回答者のうち約50%が後継者がいない農業者で、約25%が後継者が未定(決まっていない)という結果だった。
 このことから、農業従事者の高齢化及び担い手不足、有害鳥獣等による生産量の減少等により、耕作放棄地の増加が懸念されている。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

地区の農地利用は、中心経営体である農業者95経営体が担うほか、入作を希望する農業者や新規就農者の受け入れを促進することにより対応していく。

4 今後の地域の中心となる経営体の状況

○経営体数
 個人 93経営体
 法人 2経営体

5 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針

○農地の貸付け等の意向

貸付け等の意向が確認された農地は、約9.8haとなっている。

○農地中間管理機構の活用方針

将来の経営農地の集約化を目指し、農地所有者は、出し手・受け手にかかわらず、原則として、農地を機構に貸し付け、新たな受け手への付け替えを進めることができるよう、機構を通じて中心経営体への貸付けを進めていく。

○鳥獣被害防止対策の取組方針

近年、イノシシやシカなどの有害鳥獣による農作物被害が増加していることから、集落内の防護柵の設置や猟友会等による捕獲を推進し、農作物の生産量の向上や耕作放棄地の発生防止に努める。